

尾張自然観察会通信

2024年11号

発行11月1日



トリバガ科の一種

鳥の羽根に似た翅をもつ小型の蛾（シラホントリバ又はキンバナチビトリバ）です。

珍しい種ではないようですが、小さくて気づきにくいのでしょう。

草の間からユスリカ類のような飛び方で現れ、止まったところを見ると、脚に長い棘が生えています。何のためにこのような形状に進化したのでしょうか。繊細な体の構造は造形の妙としか言いようがありません。

-----目 次-----

当面の行事案内	1
定例観察会報告	2
善師野自然観察会（9月）	2
尾張北部自然観察会（10月）	3
森林公園自然観察会（10月）	4
木曽川下流自然観察会（10月）	5
海上の森自然観察会（10月）	6
日進岩藤川自然観察会（10月）	7

当 面 の 行 事 案 内

■定例観察会

日付	場所	催行時間	集合場所	担当	連絡先
11/2（土）	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
11/2（土）	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
11/3（日）	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701
11/10（日）	木曽川下流	9:30~12:00	138タワー玄関前	齋竹	0587-37-7616
11/16（土）	海上の森	10:00~15:00	海上の森駐車場	内海	090-9912-3686
11/17（日）	日進岩藤川	9:30~12:30	日進市総合運動公園の駐車場	鬼頭	0561-38-2792
11/23（土）	善師野	9:30~15:00	善師野駅前（農道駐車不可）	平井	052-504-5223
12/1（日）	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701
12/7（土）	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
12/7（土）	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304

通信に掲載したい事項やメールアドレス変更などがありましたら、下記担当者までお知らせください。

<編集担当> 齋竹善行

住所：〒482-0007 岩倉市大山寺元町12-3 メールアドレス：BZA03620@nifty.ne.jp

定例観察会報告

第343回 From 善師野 2024. 9. 28 (土) 晴 参加者 一般6名 指導員5名

9月は先月に続いて七宗町の室兼林道歩きの予定でしたが、都合により善師野に変更となりました。申し訳ありませんでした。でも、善師野は歩けば必ず楽しい出会いが待っている。稲刈りの近づいた水田では、コナギやイボクサなどの水田植物の花が見ごろを迎えました。驚きの出会いもありました。南方系のシンジュキノカワガが飛んで来たのです。木曽川下流自然観察会で幼虫が発生したという話を聞いていたばかりだったので善師野でも発生するかもと思っていました。アカボシゴマダラがエノキに産卵するシーンも見られ、こちらはビックリというかやっぱりというか・・・。

(平井)

		
今年は遅い開花です	黄色でコーディネート	ヨメナ畑
		
出た！シンジュキノカワガ	ハエトリグモがハエを捕る	こちらのクモはぐるぐる
		
ふつうには通しません	アカボシの繁殖決定！	まるで季節外れの花火

尾張北部自然観察会

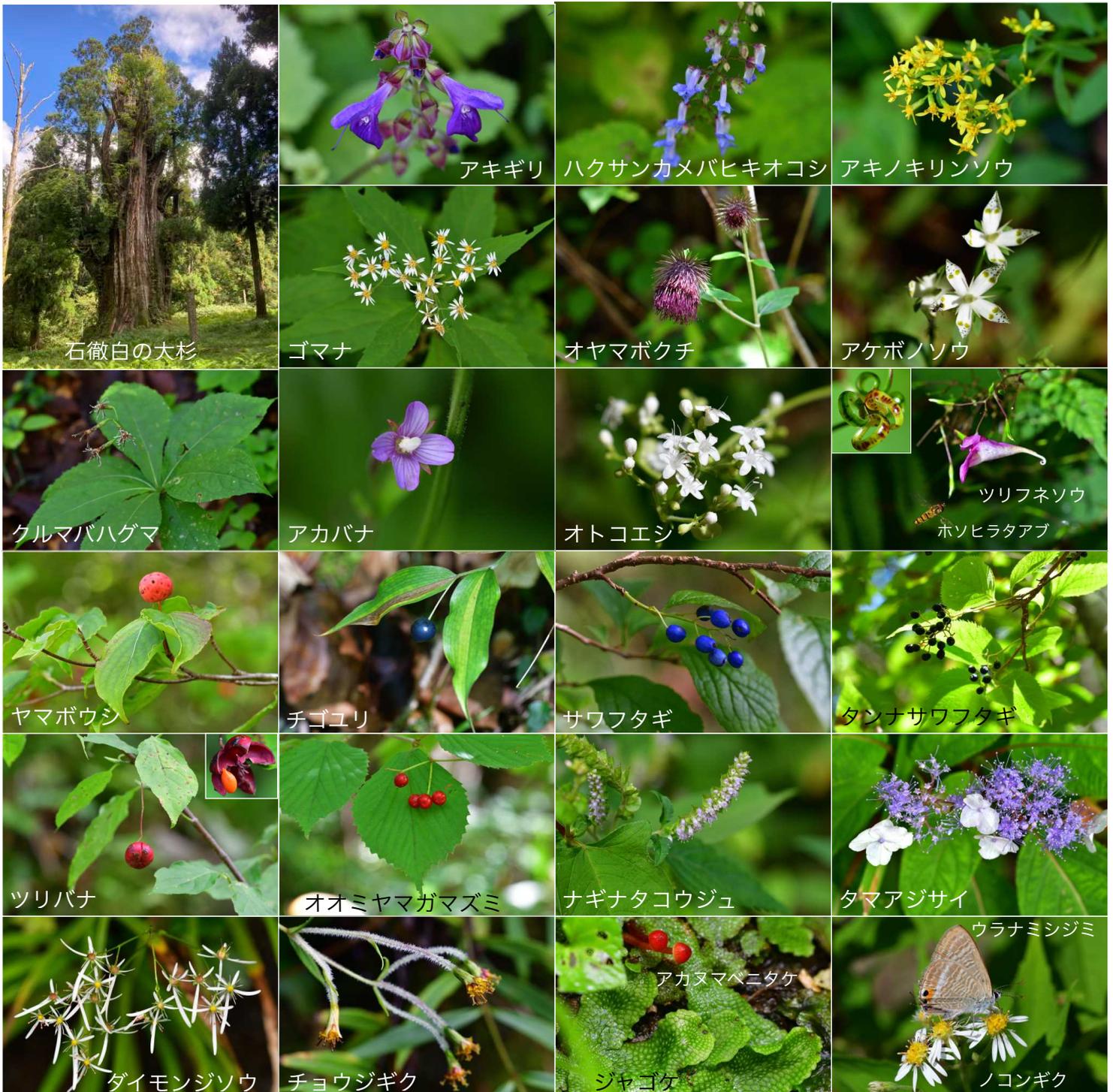
2024年10月5日(土) 晴れ

参加者 指導員(木村、太田、岡田、札野、角田、山田、後藤、後藤) 8名 一般9名 計17名

秋晴れの石徹白を訪れました。まず登山口ではアキギリとハクサンカメバヒキオコシの花が今年の同時期より数多く見られ、アキノキリンソウ、ゴマナ、オヤマボクチ、アケボノソウ、ホツツジ等も咲き、ツリバナやヤマボウシの赤い実にも目が留まりました。ツルアリドオシ、チゴユリ、ツルリンドウ、ノブキ、アクシバ、タンナサワフタギ、オオミヤマガマズミ等の実を見つけながら石段を上っていくと、青空を背にした推定樹齢1800年の大杉が出迎えてくれました。帰り道、林道脇の湿った岩壁にはダイモンジソウ、チョウジギクが咲き、サンインヒキオコシが延々と群生し林道の両側を紫色に染めていました。数多くの植物との出会いに満足し帰途につきました。(後藤)

【その他観察したもの】

【花】：トウバナ、サワアザミ、ミゾソバ、ゲンノショウコ、ヤマキツネノボタン、ヒメキンミズヒキ、アカソ、ウド等 **【実】**：ミヤマナルコユリ、アキノギンリョウソウ、バライチゴ、ムラサキマユミ、コマユミ、ミヤマシキミ、ハクウンボク等 **【その他】**：ツルニンジン(蕾)、ウワバミソウ(むかご)、イワナシ(葉)、チチタケ



森林公園自然観察会日記

森林公園観察会レポート No.369

【日時】2024年10月6日 9時30分～12時
【天候】曇り 【気温】最高 29.0°最低 20.0°(名古屋)
【参加者】計19名

指導員《出口・木村(真)・木村(絢)・櫻井・太田・小林・霜・浅井・岡嶋・渡辺・石川・高橋征・高橋(か)》+ 一般6名

まずはいつもの通り開始ミーティングです。今回の観察会には連絡協議会の浅井会長もご参加いただきましたが、なんとご自宅で収穫された美味し(そうな)“栗🍎”の贈り物付き！ また、今月も木村絢子さんから素晴らしいボタニカルアートのポストカードの贈り物と、リーダー出口さんからもいつもの様に“向日葵庵だより”を頂きました。このレポートを読んでいらっしゃる皆様も、当自然観察会にご参加下さればこんなステキなプレゼントが有るかもですよ、次回以降、是非ふるってご参加くださいませ！ (*^-^*)

更に今回は初参加者が一名。最近、健康目的に森林公園デビューされたそうで自然観察はまだまだ初心者とのこと、楽しんで頂けたら幸いです。

そしていよいよ観察スタートです。しかし本日も暑い、いや蒸し暑い、10月と言うのにまだ夏が終わって

いない。どんなに夏が暑くても毎年必ずお彼岸には美しい花弁を魅せてくれていた曼殊沙華がようやく今だし、オオシマザクラが少し咲いているし、そんな季節狂いの花々も楽しみながら観察を開始しました。今月はF湿地までの遠距離コースです。いつもの一般公園・子どもの家横は通らずに植物園に直行してお化け屋敷、アキノギンリョウソウへ。透明感のある白い花茎が地面から優麗(幽霊?)に伸び出し、開花は未だでしたが咲けば更に幽霊観が増すこと間違いなし、今後も楽しみ！ 🍃(▽)🍃

恒例となりつつある霜さんのミニ講習、今月は「アレチヌスビトハギ、変面の謎」。若手ホープの石川さんと初参加の本庄さんが蜂になりきって模擬蜜採取に挑戦。爪楊枝の先でちょんちょんすると目にも止まらぬ速さで“ポン”とシベが飛び出し、まるで中国伝統芸能、変面のごとし！ 下見時にスタッフが苦戦したのがウソの様に簡単にクリアされ、先輩の面目は丸つぶれ(笑)。最終目的地のF湿地ではシラタマホシクサが、盛りは少し過ぎたが未だ未だ隆盛で、独特の干し草の香りをプンプンさせていました、この香り、私は大好きです(笑)。

■観察した主なもの(協力:小林)

アキノギンリョウソウ、アレチヌスビトハギ、サクラタデ、ボントクタデ、ヌマダイコン、ツユクサ、ツユクサ(白花)、ヒメジソ、セイタカアワダチソウ、カゼクサ、チカラシバ、トキリマメ、ヤマハギ、ススキ、キツネノマゴ、キツネノマゴ(白花)、イヌタデ、ハナタデ、ミヤマウズラ、ヒヨドリバナ、チヂミザサ、ゴンズイ、ウンヌケ、サワシロギク、サワヒヨドリ、ホソバリンドウ、シロイボカサタケ

記・高橋(征)



画・木村(絢)



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年10月13日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般: 4名

指導員: 内海、太田、安田、齋竹

テーマ 木の実・草の実

この時期になると、クマ出没の報道をよく目にし、原因は山のドングリなどが凶作で、餌を求めて里に出てくるためと言われます。隣の岐阜県では今年のドングリ類の作柄は、ブナとミズナラが凶作、コナラが並作とのこと。ここの公園にもブナ科の樹木(8種ほど)のほか、エノキ、ムクノキなどがあります。堤防は草刈り直後で、見るべきものが少ないため、いつもとは別のコースで、木の実の豊凶状況に注目して回りました。実を数えて定量的にデータをとったわけではありませんが、皆で目視して確認した限りでは次のような感じでした。 豊作: アキグミ、モクゲンジ 並作: アベマキ、クロガネモチ、ムクノキ 凶作: コナラ、ナラガシワ、マテバシイ、アラカシ、エノキ、クズ

どうやら、ドングリ類の作柄はここもよくないようです。木の実はなり年(表年)と不なり年(裏年)が周期的に出現すると言われますが、この夏の高温などの条件が影響しているかもしれません。

今年はいろいろな花の時期が遅れていて、まだヒガンバナの花も見られます。先月、大野極楽寺公園で見た早咲きの花はコヒガンバナで、果実が膨らんでいました。周りのヒガンバナの花の後と比べると違いが分かります。(花の形状では区別困難ということです。)

例年ならこの時期には咲いているキンモクセイは、やっと蕾が膨らみ始めたところですが、近縁のウスギモクセイの方はちょうど咲き始めたところでした。

近くの御囲堤(徳川家康が築かせた木曾川の旧堤防)に、ツリガネニンジンの大きな群落がありました。花は終わりかけでしたが、半月前には50m程に渡って一面のお花畑でした。たまにはコースを変えてみると、新しい発見がありますね。

そろそろ山から下りて来てアカトンボの数が増える頃ですが、この日は枝先に止まったアキアカネとノシメトンボ各1頭、池の近くでマユタテアカネ1頭が確認できただけで、昨年より少ない感じです。これから増えてくることを期待したいものです。

(報告: 齋竹)

<その他観察できたもの>

花: セイタカアワダチソウ、キダチコンギク、マルバヅクサ、ヤブマメ、アレチヌスビトハギ、ヌスビトハギ
虫: クロアゲハ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ウラナミシジミ、ツマジロエダシャク、セイヨウミツバチ、コバネイナゴ、マダラバッタ、ウスイロササキリ、チュウゴクアミガサハゴロモ、ヌルデシロアブラムシ
鳥: トビ、モズ、ヒヨドリ、キジバト、コサメビタキ、シジュウカラ、コゲラ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス その他: アマガエル、ウシガエル



(ウッドデッキからムクノキの実を観察)



御囲堤のツリガネニンジン群落 (撮影は9/21)



コヒガンバナの実



ヒガンバナの花の後



咲き始めたウスギモクセイ



枝先に止まったノシメトンボ

海上の森自然観察会

曇のち雨 2024.10.19 一般 5人 会員 4人



トビイロハゴロモ アオバハゴロモ科



ショウリョウバッタモドキ バッタ科



ヒメホシカメムシ オオホシカメムシ科



シモフリスズメ幼虫 スズメガ科



ヤマシロギク キク科



シラヤマギク キク科



アケボノソウ リンドウ科



スズカアザミ キク科

アケボノソウが咲き始めました。ヤマシロギクやシラヤマギク・・・よく似たキク科の花も咲きだしました。昆虫ではショウリョウバッタモドキを久しぶりに見ました。トビイロハゴロモもここでは初めての虫でした。(小さくて見てなかったのかな・・・?) (内海)



寒冷前線の通過で今朝は気温が下がり秋を感じました。紅葉はまだですが、赤い葉が見つかりました(右上ドウダンツツジ、右下：ヤマハゼ)。左のハナノキはまだです。前回、芝生の上を飛んでいたウスバキトンバは姿を消し、アキアカネや越冬するホソミオツネトンボが見られました。暖かいせいかクサギの花がまだ見られました。(鬼頭)



キンモクセイ

甘い香りが漂い秋の青い空を思わせ、長かった夏の終わりを実感させてくれました。年中見られるマエアカスカシノメイガの幼虫が育ちます。



アトモンサビカミキリ

体長は 10 ミで頭を暗がりの方に向けていました。触角を体に沿って後方にながしています。錆色のゴツゴツした体です。伐採木などに来て産卵します。成虫で越冬します。



アオアツバ

秋に見られ、成虫で越冬します。黒っぽい感じの蛾で、どこが青いの？と思っていたのですが、今回初めて左端が青く光っているのに気がきました。これか、と納得です。



トノサマバッタ

よく飛ぶなあ、という声が聞こえました。体が大きくてもよく飛びます。以前やったバッタ飛ばし競争で 27 m という記録があります。その時の 1 位はウスイロササキリで 50 m 以上飛びました。



イエユウレイグモ

胴体に比べ足が極端に長いクモで、ヒメグモと同じような不規則な網を張り、枠糸にある粘液で引っかけて捕まえます。雌は球形の卵の固まりをくわえて保護するそうです。



マンネンタケ

差し渡しは 25 ミまで成長しました。周りにも小さなマンネンタケがあり、つかを割ったら 2 ミほどの幼虫が 2 匹入っていました。甲虫の幼虫だと思われれます。

